

ユース世界水フォーラム

Youth Water Japan 代表 野田 岳仁

水の将来を担っていく若い世代の挑戦

世界の水問題解決へむけて、斬新な発想と次世代を担う責任を胸に秘め、若者が挑戦を続けている。

第3回世界水フォーラムを契機に、次世代を担う若者への関心喚起、水問題解決へ向けた政策決定の場への若者の参画を目指し、2001年の11月、Youth Water Japanを設立した。

ユース世界水フォーラム開催に向けて、私たちは、水問題を新しい視点からとらえるために、水とアートをテーマにした写真展、音楽祭、シンポジウムの開催や、東京都下水道局との協働キャンペーンの展開、また、国内河川、下水処理場など、自ら水問題を体感するためにフィールドワークを行う一方で、タイ、南アフリカなど、国外の現場や国際会議にもメンバーを派遣し、世界の水問題の現状を認識するとともに、世界の水環境NGOとのネットワーク構築を続けてきた。



京都 貴船神社にて開催した「水の音楽祭」

約50ヶ国、1300人を超える若者を集めた ユース世界水フォーラム

「ユース世界水フォーラム」では、国内外の青年NGOと連携しながら、4つのコンポーネントから多種多様なイベントを展開した。水問題解決へ向けた世界の若者の活動事例報告と水の将来へ向け

た若者の宣言文、若者の約束（行動計画）を策定するための『ディスカッション』の場。また、水問題解決へ向けた政策決定の場への若者の参加と各界のリーダーとパートナーシップの構築を目指した直接『対話（ダイアログ）』の場。若者らしく、誰でも気軽に参加できるように、音楽、映像で水を表現した『ダンスパーティー』や『トークイベント』。世界中の環境映像作品の中から水とアジアをキーワードに上映した『映像祭』など、参加者の関心の幅にあわせ、選択できるプログラムで構成した。



グループディスカッション



アクションプランの策定

第3回世界水フォーラムの公式プログラムでもある「ユース世界水フォーラム プレナリ？セッション」では、約50ヶ国、500人を超える若者の参加の中、「開発」「文化」「都市」「教育」「グローバリゼーション」などのテーマに関する世界の若者の活動が報告され、各界のリーダーとの対話の場には、アブザイド世界水会議会長、イアン世界銀行副総裁、プロンクオランダ環境大臣、武村正義元蔵相など、第一線で活躍される方々と熱い議論を交わした。また、会議途中には、オランダ皇太子オレンジ公にも御登場いただき、メッセージを頂戴した。

この対話の場で、リーダーとの具体的な約束をとりつけたかったが、残念なことに、具体案への合意にはいたらなかった。しかし、500人を超える若者が集まり、水への思いを共有し、真剣に水の将来について議論できたことには大きな意味があり、そのことは、参加いただいたリーダーにも大きな期待と安心感として理解していただけたようである。また、リーダーからは、こういった対話の場の重要性が語られ、今後の具体的なパートナーシップ構築へ向けた第一歩となった。

この対話のあと、世界の若者として、「基本的人権としての水」「教育と持続可能な開発」「ガバナ

ンスと地域社会」「水管理者としての公共セクターと民間セクター」「水と文化」の5つのテーマに分かれた「ヤング・ピープルズ宣言」を採択した。



オランダ皇太子オレンジ公からメッセージ



「ヤング・ピープルズ宣言」採択

ユース世界水フォーラム

Youth Water Japan 代表 野田 岳仁

ヤング・ピープルズ宣言

イントロダクション

私たちは、過去20年以上に亘って、水問題の解決への歩みが殆んど停滞し、進んでいないことに衝撃を受けています。

政策決定者に比べて、固定観念や先入観にとらわれる危険性が少ない私たち若者には、水問題解決の中で果たすべき役割があります。それは、新鮮で革新的なアイデアを生み出し、それらを実際に行動へと移していく役割です。

私たちは信じます。あなたが若者や地域社会と協力して、自発的な参加と支援を行うことで、問題解決への行動が素早く実施され、水問題が解決されるということ。

背景

この宣言は、世界中のすべての国々の若者によって作成されたわけではありませんが、第三回世界水フォーラムで開催された世界ユース水フォーラムの参加者を含む、途上国から先進国に至るまでの幅広い若者達によって作成されています。(ユースウォータージャパン (YWJ) とヤングウォーターアクションチーム (YWAT) とが世界中の若者を代表してこの宣言文の起草とコーディネートにあたった。さらに詳しい情報は、www.youthwater.orgおよびwww.ywat.jpを参照のこと。)

本文

◆基本的人権としての水

若者は、利害関係者と協力して、「すべての人が水に対してのアクセス権を持つことを規定する」国連宣言決議の可決が適切に行われるべく、積極的に働きかけていくことを表明します。

上記の権利は、「人間としての基本的ニーズを満たすために、すべての人が生産物への水利用を含む、十分に安全かつ衛生的な水にアクセスできる権利」であると解釈されるべきです。水にアクセスする権利と対になる、「責任を持って利用する義務」は、すべての個人に課されるべきものです。今日からでも、法的・政治的枠組みの作成・修正に関して、政府は若者に意見を求めるべきであると考えます。

政府は水問題を1つの側面からではなく、健康・林業・農業・食糧自給および確固たる生態系管理などの諸問題とともに複合的に考える必要があります。加えて、若者・女性・先住民ならびに社会から疎外されている他のコミュニティに権限を与え、発言の機会を持たせることは重要課題として扱われるべきです。

◆教育と持続可能な開発

人権としての水を「責任を持って利用する義務」を果たすべく、すべての個人は持続可能な水資源開発や水利用に関するサービスの在り方を模索し、その実現のために行動していかなければなりません。教育は、その行動における最も根底の部分であり、重要な要素の1つであります。

よって、持続可能な開発および水問題への重要性に関する教育は、早い段階からの教育課程の中に組み込まれ、若者に認識されなければなりません。

また、その高い認識を基盤とし、高等教育機関においては、水問題解決に向けた新技術開発・研究を行うことが出来ます。しかし国によっては、高等教育機関への資金提供が十分になされておらず、そのような国においては、開発・研究を支えるために十分な投資がなされる必要があります。

私たちは開発・研究を進めていく上で、新しく実用的な解決技術開発に加え、伝統的な地域社会特有の水管理システムの復興ならびに現行システムとの融合を奨めます。若者は、地域住民や、その地域の水環境に詳しいすべての利害関係者から伝統的水利用方法や管理方法を学ぶことにより、地域的特徴に適合する新たな技術を開発することが出来ると思われれます。

◆ガバナンスと地域社会

＝制度的枠組みの確立＝

教育を通して地域住民が獲得した知識や意識、もしくは高等教育機関で開発した技術を十分に活かすためには、地域住民の声が排除されることのない、公正な枠組み作りが欠かせません。法律・政策ならびに規制に関する、透明かつ公正な地域住民参加プロセスの構築と適切な施行は、水問題の解決が成功するための重要な鍵となります。

また、水利用に関するサービスの計画・供給・監視に地域社会が関わる事ができる制度を確立し、十分な資源活用を行えるシステムを構築することも必要です。

さらに、その枠組みは教育を通して得た知識を活かすだけに留まらず、地域社会におけるより立場の弱い構成員が発言出来る機会を持ち、そのアイデアが権力構造によって排除されないことを保障する制度でなければなりません。

＝市民社会の成長＝

教育が追いついていない現時点においては、特に枠組みの確立過程において、常に地域コミュニティの構築と教育プログラムが配慮されなければなりません。これら2つが配慮されることによって、地域住民が自らの生活に大きな影響を与える事柄について、理解し参加することが出来るようになるからです。

若者は以下の手法により、市民参加モデルの効果を上げる潜在能力を秘めています。

- ・地域社会との交流を通じて、新たな概念の普及を推進し、地域住民が政策決定プロセスに参加・貢献しやすくなる手助けを行う。
- ・地域住民と政策決定者ならびに水道サービス提供者との架け橋になる。
- ・地域社会の利益に結びつく研究やアクションプランの計画・実行を通じて、地方自治体を支援する。

◆水管理者としての公共セクターと民間セクター

既述の「人権としての水」にアクセスする権利を実現させるためには、水供給サービスの在り方を再考する必要があります。我々は改めて「水は公共財」であるということを認識し、利益のため

ユース世界水フォーラム

Youth Water Japan 代表 野田 岳仁

に売るべきではなく、企業に対して貧困層からの利益搾取を行ってはならないことを訴えて行かなければなりません。

国際金融機関は資金提供先国自身の水協同組合を促進するべきであり、民間部門の関与を資金調達の前提条件にしてはなりません。水利用サービス提供者は、公正な価格設定を保障するべく規制・監視されて然るべきです。このため、適切な規制・監視の枠組みを創設することは求められます。

私たちは、水の価格の上限を決める権限と運用条件を課すのに必要な規制内容を作成する権限を持った、中立的な第三者機関を設立することを推奨します。この中立的な第三者機関は、専門家・市民社会ならびに若者等を含む、水問題解決において果たすべき役割がある人々の代表によって構成されるべきです。

さらに、水価格を設定する適切な仕組みが確立することは重要です。それは、すべての人々が水利用サービスの供給・構成にアクセスする権利を保障する意味で必要なことです。

コスト等の必要な事柄はすべて数値化されて表現されるべきですが、数値化することが逆に住民への公正なアクセスの障害となってしまうはいけません。連結補助金支出や連結予算を含む、アクセスを保障するための様々な手法は存在します。水利用に関するサービスは、透明な会計制度を持つべきであり、すべての支出項目は公に対して説明されるべきです。

◆水と文化

＝先進国において＝

近代化に伴い、我々が日々使用する水の量は増え続け、有限資源であるにも拘らず感謝の意を欠いたものになっています。現在の先進国における水環境の悪化や過剰利用は、私たち自身のライフスタイルの転換を求めるレベルに達していると考えます。

伝統的な水利用の文化は、将来世代への資源保全を行うために、私たちのライフスタイル転換方法を考える術を教えてください。伝統的な水利用方法と現代との違いに対する正しい知識と認識（例えば、上の世代との交流を通じて学ぶことは出来る）があれば、我々若者は正しい水利用方法を実践する機会を得るだけでなく、手本となって周りの人々や次世代の人々に伝えていくことが出来ます。

＝国際河川流域において＝

伝統的な水利用文化を見直すことは、上記のような良い影響を私たちに与えてくれますが、一方、それ自体が過去から現在に残存する水問題の原因である場合があります。しかし、共有される河川流域内の異文化間の交流を進めることにより、更なる有効で効率的な水管理を実現することが可能と考えます。

また、水文化や水にまつわる諸慣習は地域ごとに大きく異なっています。水管理技術において、近代文明の影響が特に強い発展途上国においては、地域の文化的慣習の重要性を理解・考慮することが大切であり、それらを安易に失ってしまわないように、関連する法的枠組み等に組み込むべきであると考えます。

大衆性と具体性を軸にした「生成型」アクション

「ユース世界水フォーラム」では、「行動しながら議論」することを実現させる場として、個々が水筒を持ち歩く、マイボトルキャンペーンを展開した。これは、商品化され、輸入された海外の水を飲むこと、環境負荷の高いペットボトルのオルタナティブとして、「コミュニティの水を飲む」こと（＝コミュニティで生産されたものを食べることを）を提唱したアクションであった。深刻化する世界の水問題に対し、個人ができるアクションとして、期間中大変大きな注目をあびた。水問題解決へ向けた多くの研究、政策が実行される中、解決策がなかなか見えてこないのは、個人レベルでできることを誰もが見落としてしまっている点にある。第3回世界水フォーラムに参加された多くの人々でさえ、水問題に対して意見は言えても、個人レベルで実行していることの提示はできなかった。これは、私たちの心に大きな違和感として残り、環境問題の抱える根本的な問題を浮き彫りにしていた。マイボトルキャンペーンや音楽や映像を介した私たち独自の「生成型」手法が、大きな注目をあびたのも、専門性の押し付けではなく、大衆性と具体性を軸にしたことで、世界につながるアクションとして、人々の心に届いたからではないだろうか。



海外ユースメンバーと

これからの挑戦

「ユース世界水フォーラム」では、「行動にもとづいた議論」をすることを前提とし、「自分にできることを実行」した上で、自分たちの考えを理解してもらおうと考えた。市民社会が成熟しつつある現在でも、若者の存在感は薄く、社会を形成する一員とは遠い存在にある。だからこそ、自分たちにできることを実行したうえで、様々なセクターと世代を越えた人々とのパートナーシップの構築を目指していく。

全体のプログラムを通し、約50ヶ国、1300人を超える参加があった今回の「ユース世界水フォーラム」は、未来に向けたスタートと位置付け、反省材料を明日への糧とし、さらに多くの若者を取り込み、アクションを起こしていく。アジア地域の若者のネットワークを構築することやリーダーとの具体的なパートナーシップを構築することなど、また新たな目標が加わった。

これらの目標を達成するため、Youth Water Japan は、ユース世界水フォーラムでの経験やネットワークを生かし、活動主体を全国的な一つの組織から、各地域（札幌、東京、京都）へと移し、国際的な視野を踏まえ、より実践的な活動を続けていく。アジア地域の若者との連携を目指し、日中ユース水フォーラムや2005年の愛知万博にてアジアの若者を集めたフォーラムを開催していく予定だ。

この先の見えない水の未来を切り開くのは、次世代を担う私たちである。